

4月から毎月書きためてきた「思い出カード」を使って、いよいよ生活科の学習で「思い出すごろく」をつくりまします。すごろくが上手にできたら「知識・技能」の評価になるのでしょうか。

「知識・技能」においては、
①気付きが自覚されること
②個別の気付きが相互に関連付くこと
③対象のみならず自分自身についての気付きが生まれることを
気付きの質の高まりとして見取ることが大切です。

例) 観点: 「知識・技能」 * 「知識・技能」のうち、知識に関する評価規準(例)

①1年間の学校生活において、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどに気付いている。

☆具体的な児童の姿☆

- 一つ一つの「思い出カード」を読み返しなが、頑張った自分の姿を思い出している。
- 「思い出カード」に書かれた出来事について友達と話しなが、できるようになったことを確かめ合っている。



初めての参観日、手を挙げて発表できたよ。

幼稚園の頃は怖かったけど、小学校では体育の時間にジャンプできたんだよ。

「思い出カード」の記述や、それを介した友達との会話から、頑張った自分の姿を思い出したり、自分の変化や成長について捉えたりしているな。

複数の「思い出カード」をつなげて見なが、自分の変化や成長について捉えている。

ヤギの世話、初めは怖かったね。でも、ヤギランドで仲良くなれたな。



だんだんお世話が上手になったよね。そういえば、昨日も発見したよ! エサの食べ方を見ていると、ヤギがどれくらい元気か分かるようになったんだ。

特にヤギの世話をしたことに関心をもって、関連するカードを何枚か並べなが友達と話し合っているな。ヤギと関わりなが世話の仕方が分かっていったことを思い出して、カードに書き加えたりもしているな。

G児は、自分の変化や成長について捉えなが、できるようになったことや役割が増えたことに気付いていると見取することができます。さらに、お世話のみならず、ヤギの食事に関する新たな気付きを書き加えて、お世話が上手になった自分に気付いていると見取することもできます。このことから、「十分満足できる状態(A)」と判断することもできます。

単元の目標 第1学年 内容(9)「自分の成長」
書きためてきた「思い出カード」をもとに「思い出すごろく」をつくって遊ぶ活動を通して、過去と現在の自分を比較し、自分自身が成長していることや様々な人が自分の成長を支えてくれていることに気付くとともに、これからの期待をもって意欲的に生活できるようにする。

小単元における評価規準は、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料の「内容のまとめりごとの評価規準(例)」及び「具体的な内容のまとめりごとの評価規準(例)」(P73～)を参考に見てみてください。



*「知識・技能」のうち、技能に関する評価規準については、学習指導要領解説生活編(P13～14)をご参照ください。

単元の評価規準		知識・技能	
		書きためてきた「思い出カード」をもとに「思い出すごろく」をつくって遊ぶ活動を通して、自分自身が成長していることや様々な人が自分の成長を支えてくれていることに気付いている。	
小単元における評価規準	1	①1年間の学校生活において、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどに気付いている。	
	2	②友達と一緒に成長してきた自分自身や自分の成長を喜んでくれる友達の存在に気付いている。	
	3	③優しい気持ち、友達や家族への思いやりなど、内面的な成長に気付いている。	